

かわらばん

まちえんながの

第 13 号

5 月 15 日(水)

発行
まちの縁側育み
プロジェクトながの

長野市ボランティア
センター内
TEL 227-3707
FAX 224-1513



岩波新書から発売

長野の取り組みが 紹介されました！

3月19日に延藤安弘さん(名〇 法人まちの縁側育み隊代表)の『まち再生の述語集』が発刊されました。まち再生の思想と手法のキーワード集として44の述語にまつわる全国の事例が紹介され、まち育てのヒントとなることがたくさん書かれています。そのひとつ「タンケン・ハツケン・ホットケン」の事例として『まちの縁側5000ヶ所』を目指す長野の取り組みが紹介されました。「タンケン・ハツケン・ホットケン」は、遊歩謀議であると、その意味の深さを改めて知ることになりました。

縁の輪……

また、この本の掲載が縁で、広島で「長井ぶらつとホーム縁が和」をされている寺本克彦さんが、長野のまちの縁側を見に来られました。善光寺の近くにある縁側を訪ね、現場で縁側のよさを感じていただきました。縁側の主からお話を聞くことで、その心を学ぶことができずし、訪ねるたびに、そこで起きている新たな物語を知ることが出来ます。



「気軽にお茶のことを話せる場所を作りたい」と思っている主人の思いで出来たカウンターで。距離がぐぐり近くなる……



シャレモンハウスさんの店先には、お客さんが作ったこいのぼりがざらりと泳いでいました。

シャレモンハウス(洋品・雑貨店)の山岡和正さんから、梅漬けを持ってふらりとやってきた若者の話や、障がいのあるお子さんの親ごさんがちよつといっぷくに来られるお話をお聞きしました。また、山岡さんから教えていただき、今回初めて伺った老舗のお茶屋さんでは、病院帰りに立ち寄る人や介護をしているご近所の方がこられている話をお聞きしました。



店先に置かれたベンチの下には、小鳥がりんごをおいしそうに食べていた。縁側は、人だけでなく小鳥も来る居心地がいい場所。

予告

「まちの縁側育みプロジェクトながの」の総会を下記日程で「**まちの縁が輪縁奏会**」として開催します。昨年、松代町で縁側めぐりをし、縁側人からたくさんのお話を学びました。今年、築140年の古民家に住まわれる縁側人、92歳の長老を訪ねます。今から、ご予定ください。詳細は次号でお知らせします。

縁奏会開催予定日
6月23日(日曜日) AM10時~12時
(長野市南堀 金丸宅にて)

視察に来られた寺本さんは、「場所じゃないですね。人でですね。」とつぶやいておられました。寺本さんは、広島で市民活動をたくさんされている方ですが、65件の自治区でミニデイサービスを始めにいたり、まちのぷらつとホームにしようとして、自治区との協働で地域の人が気軽に集える縁が和をつくっています。寺本さんの取り組みも延藤先生の本に紹介されていて、本がきっかけで、いろんなところにご縁が生まれました。

お知らせ

長野市ボランティアセンターでは、毎年、まちの縁側講座や縁側大楽を開催しています。まちの縁側のことを知りたい、学びたいという方は、この講座への参加もできます。今年度は、9月・10月に開催予定です。別紙のボランティア・市民活動コーディネーター養成講座のチラシをご覧ください。日程等が決まりましたら随時お知らせいたします！！お見逃しなく！

若穂『縁側の家』を訪ねました



開設から 4 年目を迎えた「若穂団地縁側の家」を訪ねました。毎週木曜日の午前 10 時、団地のあちこちから集まって来るみなさん、95 歳の一人暮らしの方や普段はデイサービスに行っているけど、木曜日だけは縁側に来ると言う方など、楽しみに集まってこられます。

縁側では、おしゃべりが中心。当番のスタッフが用意したお茶を頂きながらすぐにワイワイがやがや賑やかに。「はじめまして、今日初めて参加しました。こないところがあったんだね」と、笑顔で挨拶をされた女性、毎回かならず、同じ挨拶。周りのみなさんも毎回「よろしく」と。認知症という言葉をお口にしないで分かります。



縁側は情報の場

この日、スタッフの一人が「うちに怖い電話があったの」と詐欺の電話があったことを話すと、「うちにも同じような電話があった」との声が。怖い電話の手口を聞いて知らない番号の電話に出ない方法の話で盛り上がりました。さらに、団地が狙われているかもしれないから皆で気をつけようと、区長さんや民生委員さんにも伝えましょうと、話が進みました。



代表の丸山秀夫さん
縁側人は宝人との名言を編み出した

四年目を迎えて

代表の丸山秀夫さんに三年経った今の縁側の様子を聞きしました。

「心が元気でなかった方が、毎回参加されて段々笑顔にかわっていった。みんなが元気になり、笑顔になって、話をするようになったことがやり続けてよかったことです。」と、来られる人が気軽に、居心地の良いところになっています。

開設当初は、地域の中でもなかなか理解されなかった苦労も、今では、『この場があったよかった』という声になったそうです。それには、縁側を支えている縁側人であるスタッフがいるからと、みんなで創り上げてきたことで、じわじわと縁側のよさが浸透したようです。



開設当初から縁側の記録が丁寧につづられている縁側日誌、3年間で凝縮されている

まちの縁側育みプロジェクトながのかわらばんでは、まちの縁側を伝え広める活動をしています。地域に届け縁側の紹介や研修を行っています。縁側に関心のある方は一報ください！

まちの縁側育みプロジェクトながのかわらばん
電話 026-2273707

(担当 西沢)



つぎはき

長野の善光寺界隈で最近若者が面白くことを始めています。ちよこ気になる。若者の縁側発掘の旅をはじめようかな。そうそう、某新聞社でまちの縁側の連載も始まりそうだし。今年も面白くなさぬわー！

